



Hewlett Packard
Enterprise

HPE Recovery Manager Central 3.0.0 for Microsoft SQL 移行ガイド

摘要

本書は、データベースのバックアップを担当するデータベース管理者を対象としています。本書では、既存の HPE 3PAR Recovery Manager Software for Microsoft SQL Server (RMS) バージョン 4.6、4.7、4.7.1 のデータを HPE Recovery Manager Central for Microsoft SQL (RMC-S) バージョン 3.0.0 へ移行するための前提条件および手順について説明しています。

部品番号: 853224-193
2016 年 8 月
第 1 版

© Copyright 2015, 2016 Hewlett Packard Enterprise Development Company, L.P.

本書の内容は、将来予告なしに変更されることがあります。Hewlett Packard Enterprise 製品およびサービスに対する保証については、当該製品およびサービスの保証規定書に記載されています。本書のいかなる内容も、新たな保証を追加するものではありません。本書の内容につきましては万全を期しておりますが、本書中の技術的あるいは校正上の誤り、省略に対しては責任を負いかねますのでご了承ください。

サードパーティ製品の Web サイトへのリンクは、Hewlett Packard Enterprise 以外の Web サイトを紹介するものです。Hewlett Packard Enterprise は、Hewlett Packard Enterprise 以外の Web サイトの情報については、管理しておらず、また責任を負いません。

本書で取り扱っているコンピューターソフトウェアは秘密情報であり、その保有、使用、または複製には、Hewlett Packard Enterprise から許諾を得る必要があります。米国政府の連邦調達規則である FAR 12.211 および 12.212 の規定に従って、コマーシャルコンピューターソフトウェア、コンピューターソフトウェアドキュメンテーションおよびコマーシャルアイテムのテクニカルデータ (Commercial Computer Software, Computer Software Documentation, and Technical Data for Commercial Items) は、ベンダーが提供する標準使用許諾規定に基づいて米国政府に使用許諾が付与されます。

商標について

Microsoft® および Windows® は、Microsoft 企業グループの登録商標です。

VMware®, VMware® vCenter Server™, および VMware vSphere® Web Client は、米国およびその他の地域における VMware, Inc.の登録商標または商標です。

Adobe® および Acrobat® は、Adobe Systems Incorporated の商標です。

Java および Oracle は、Oracle Corporation およびその子会社、関連会社の登録商標です。

本書に掲載されている会社名、製品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

目次

1 移行の準備	4
概要.....	4
前提条件.....	4
スナップショット情報の同期	4
RMS データの場所の確認.....	4
デフォルトストレージシステムの設定.....	5
2 移行プロセス	7
RMS 4.x データの移行.....	7
移行の進捗状況の表示.....	8
移行されたコンポーネントの確認.....	9
3 Remote Copy スナップショットの移行	12
非同期長距離構成.....	12
同期長距離構成.....	13
4 トラブルシューティング	15
5 サポートとその他の資料	16
Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス.....	16
アップデート情報の取得.....	16
Web サイト.....	16
リモートサポート.....	17
用語集	18

1 移行の準備

概要

本書では、HPE 3PAR Recovery Manager Software for Microsoft SQL Server (RMS) バージョン 4.6、4.7、4.7.1 の既存のデータを、HPE Recovery Manager Central for Microsoft SQL (RMC-S) バージョン 3.0.0 へ移行するために必要な前提条件および手順について説明します。

移行後、すべてのローカルおよびリモートのスナップショットは、それぞれのポリシーおよびスケジュールと共に RMS 4.x から RMC-S 3.0.0 へ移行されます。

注記: 本書で使用される「RMS 4.x」という用語は、RMS 4.6.0 および RMS 4.7.x の両方を指します。

- ① **重要:** 移行プロセス中は、リカバリセットなどのオブジェクトおよびその属性は不安定な状態になります。HPE では、移行プロセスが完了するまでは他のタスクを実行しないことをお勧めします。移行プロセス中に稼働しているすべてのスケジュール設定されたタスクは、未定義の状態に失敗します。これは、移行プロセスに影響はなく、移行完了後の RMC-S のタスクにも影響はありません。
-

前提条件

スナップショット情報の同期

移行を開始する前に、スケジュールされたジョブが RMS 4.x のセットアップで実行されていないことを確認します。スケジュールされたジョブが実行中の場合は、ジョブが完了するのを待ってから移行を開始する必要があります。RMC-S 3.0.0 へ移行する前に、ストレージレイとレポジトリ間のスナップショット情報を同期させる必要があります。同期は、CLI コマンドを使用するか、RMS 4.x の GUI から実行できます。

CLI コマンドによる同期

すべての SQL ホストで、RMS 4.x の `hprmccli sql analyze` コマンドに `-sync` オプションを指定して実行します。

RMS 4.x GUI による同期

1. デスクトップにある HPE 3PAR Recovery Manager for SQL Server アイコンをダブルクリックし、RMS 4.x GUI を起動します。
2. **[HPE 3PAR Recovery Manager For SQL]** ウィンドウでホストを右クリックして、**[Analyze]** をクリックします。

[Analyze Repository] ダイアログボックスが表示されます。

3. **[Synchronize result with Repository]** を選択します。
複数のホストがある場合は、すべての SQL ホストでこの手順を繰り返します。

スナップショット情報の同期後の手順:

1. RMC 3.0.0 VM を展開します。
2. インターフェイスサーバーで RMC-S 3.0.0 をインストールします。
3. すべての SQL ホストで RMC-S 3.0.0 をインストールします。
4. すべての関連するストレージシステムを RMC 3.0.0 VM に追加します。
5. RMC-S 3.0.0 インターフェイスサーバーを RMC 3.0.0 VM に登録します。

RMS データの場所の確認

RMC-S 3.0.0 のインストーラープログラムは、以前の RMS 4.x のインストールパスを自動的に検出して、ソフトウェアをアップグレードします。RMS のデータフォルダーは、

Data-Legacy-Backup フォルダにバックアップされます。移行プロセスを実行すると、移行エンジンがこのバックアップフォルダからデータを取得し、登録された RMC 3.0.0 VM へデータを転送します。

たとえば、既存の RMS 4.x のインストールパスが C:\Program Files\3PAR\RM\SQL\ の場合、RMS 4.x のデータパスは C:\Program Files\3PAR\RM\SQL\Data\ となります。RMC-S 3.0.0 にアップグレード後、RMS のバックアップデータは、C:\Program Files\3PAR\RM\SQL\Data-Legacy-Backup\ で利用できます。

データを任意の場所、たとえば、D:\MyCustomPath\3PAR\RM\SQL\Data\ に手動で移動していた場合は、**[Migrating RM for SQL (RMS) data from Interface Server]** ウィンドウで次のオプションを使用します。

- **[Specify previous RM for SQL data location path on Interface Server]**
- **[Force fetch RMS data from Interface Server]**

これらのオプションについての詳細は、「[RMS 4.x データの移行](#)」(7 ページ)を参照してください。

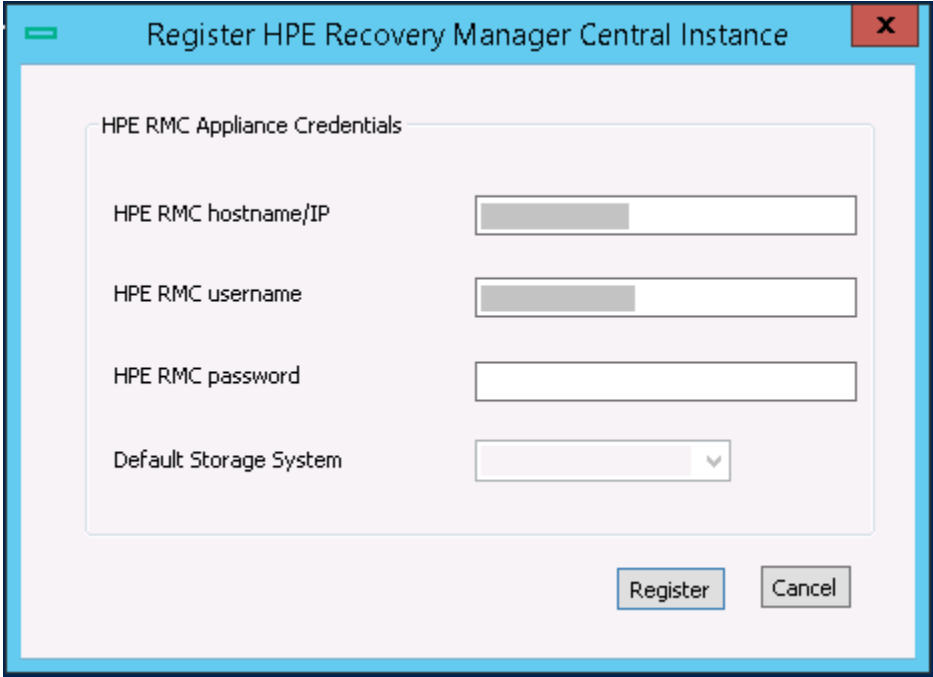
デフォルトストレージシステムの設定

RMC アプライアンス上に、少なくとも 1 つのデフォルトストレージシステムが設定されていることを確認します。

10 桁のシリアル番号を持つストレージシステムを使用している場合は、移行する前に RMS で使用していたデフォルトのストレージシステムを設定する必要があります。

1. C:\Programs files\HPE\RMC\Provider\ にある RmcRegistration ツールを実行します。

[Register HPE Recovery Manager Central Instance] ウィンドウが表示されます。



2. 次の詳細情報を入力します。

- **[HPE RMC password]**—RMC アプライアンスのパスワードを入力します。
- **[Default Storage System]**— デフォルトのストレージシステムを選択します。

[Default Storage System] には、RMC Registration ツールによって HPE 3PAR StoreServ のシステム ID が表示されます。次の例では、HPE 3PAR StoreServ の CLI コマンドを使用して、正しい HPE 3PAR StoreServ のシステム ID をマップしていま

す。HPE 3PAR StoreServ のシリアル番号が 1647290 の場合、このシリアル番号の末尾 5 桁が HPE 3PAR StoreServ のシステム ID です。ご利用の構成でこのようなマッピングが見つからない場合は、次の HPE 3PAR StoreServ の CLI コマンドを使用して、HPE 3PAR StoreServ のシリアル番号と HPE 3PAR StoreServ のシステム ID の正しいマッピングを表示してください。

たとえば、

```
$showsys -d
```

コマンドを実行すると、次のような出力結果が表示されます。

```
-----General-----
System Name      : ndu_3par_01
System Model     : HPE_3PAR_7400
Serial Number    : 1647290
System ID       : 47290
Number of Nodes  : 4
Master Node     : 0
Nodes Online     : 0,1,2,3
Nodes in Cluster : 0,1,2,3
Chunklet Size (MB) : 1024
```

説明

StoreServの名前: ndu_3par_01
StoreServのシステムモデル: HPE_3PAR_7400
StoreServのシリアル番号: 1647290
StoreServのシステムID: 47290

3. **[Register]** をクリックします。

選択したストレージシステムが、RMC アプライアンスのデフォルトストレージシステムとして設定されます。

2 移行プロセス

移行を開始するには、**[Migrating RM for SQL (RMS) data from Interface Server]** ウィンドウを使用します。

[Migrating RM for SQL (RMS) data from Interface Server] ウィンドウの表示方法についての詳細は、「[RMS 4.x データの移行](#)」(7 ページ)を参照してください。

移行プロセスは、以下のタスクを実行します。

- RMC-S 3.0.0 インターフェイスサーバーから RMS のカタログデータを取得します。
- RMS のカタログデータを抽出します。
- 抽出したデータを処理し、移行するデータをローカルの RMC 3.0.0 VM データベースにロードします。
次のイベントが発生します。
 - リカバリセットが作成されます。
 - すべてのスナップショットが移行され、リカバリセットに関連付けられます。
 - ポリシーが移行されます。
 - スケジュールが移行されます。
 - 中間移行データが RMC-S 3.0.0 インターフェイスサーバーにインストールされます。
 - SQL Server のインスタンスが、RMC-S 3.0.0 インターフェイスサーバーに自動的に登録されます。
 - 残りのスナップショットが移行されます。
- 移行データが正しいかどうか、ストレージレイから取得したデータと検証します。
- 最終的に移行データを生成し、RMC-S 3.0.0 インターフェイスサーバーにインストールします。

注記: 移行プロセス中は、リカバリセットなどのオブジェクトおよびその属性のアップデータが不安定な状態になります。そのため、HPE では、移行プロセスが完了するまでは他のタスクを実行しないことをお勧めします。スケジュール設定されたタスクが移行プロセス中に実行されると、それらのタスクは未定義の状態で見失われます。

RMS 4.x データの移行

1. RMC の GUI にログインします。
2. **[HPE Recovery Manager Central]**→**[Interface Servers]**を選択します。
3. **[Actions]**→**[Migrate]**を選択します。
[Migrating RM for SQL (RMS) data from Interface Server] ウィンドウが開きます。

Migrating RM for SQL (RMS) data from Interface Server 10.11.9.237
?

Perform the following task(s) before you begin migration:

- Add all storage systems as per RM for SQL 4.6 or later.
- Register all interface servers
- If you have remote copy configuration (find more details [here](#)):
 - Add all remote appliance(s)
 - Execute migration on target interface servers separately to migrate snapshots for all the servers.

Old/Existing RMS schedules may be converted during migration. Review all schedules post migration. Find more details [here](#)

If migration fails, fix problems and run migration again.

Specify previous RM for SQL data location Path on Interface Server:

(Use only when you want to specify a custom path, on your Interface Server that contains the RMS data.)

Force fetch RMS data from Interface Server

(Use this option when retrying migration or when switching to a custom path specification. Find more details [here](#).)

Click to continue

Yes, Migrate

Cancel

4. データを手動で任意の場所に移動した場合は、以下のオプションのいずれかまたは両方を選択します。
 - **[Specify previous RM for SQL data location path on Interface Server]**。テキストボックスを有効にし、テキストボックス内にカスタムパスを指定します。
 - **[Force fetch RMS data from Interface Server]**。移行エンジンにインターフェイスサーバーからデータを強制的に取得させます。
このオプションを有効にすると、移行エンジンはインターフェイスサーバーに従来のデータを要求します。
5. **[Yes, Migrate]** をクリックして、移行を開始します。

移行の進捗状況の表示

移行の進捗情報を表示するには、**[HPE Recovery Manager Central]**→**[Activity]**を選択します。

HPE Recovery Manager Central ▾					
GENERAL	STORAGE DEVICES	MANAGE	MICROSOFT	ORACLE	APPLIANCE
Dashboard	Storage Systems	Recovery Sets	Microsoft SQL Server	Servers	Users
Activity	Backup Systems	Snapshot Sets	Interface Servers	Databases	Roles
Schedules		Backup Policies		Protection Policies	Catalog Protection
		Copy Policies			Notification Policies
		Express Protect			Remote Appliances
		Catalyst Copy			Settings

移行されたコンポーネントの確認

リカバリセット

移行後、移行されたすべてのリカバリセットは、RMC-S 3.0.0 互換になります。

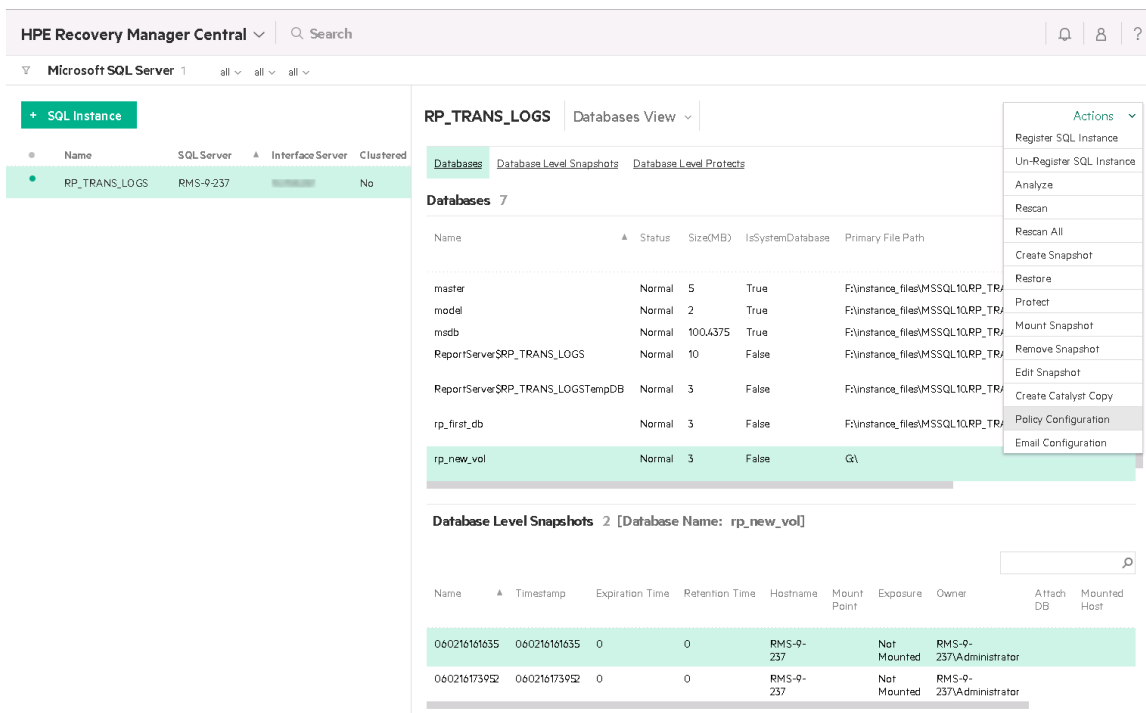
移行されたリカバリセットを表示するには、**[HPE Recovery Manager Central]→[Recovery Sets]**を選択します。

HPE Recovery Manager Central ▾					
GENERAL	STORAGE DEVICES	MANAGE	MICROSOFT	ORACLE	APPLIANCE
Dashboard	Storage Systems	Recovery Sets	Microsoft SQL Server	Servers	Users
Activity	Backup Systems	Snapshot Sets	Interface Servers	Databases	Roles
Schedules		Backup Policies		Protection Policies	Catalog Protection
		Copy Policies			Notification Policies
		Express Protect			Remote Appliances
		Catalyst Copy			Settings

ポリシー

移行後、移行されたすべての RMS ポリシーは、RMC-S 3.0.0 互換になります。

移行されたポリシーを表示するには、**[HPE Recovery Manager Central]→[Microsoft SQL Instances]**を選択し、**[Actions]→[Policy Configuration]**をクリックします。



スケジュール

- 移行後、移行されたすべての RMS スケジュールは、RMC-S 3.0.0 互換になります。
- RMS スケジュールが、RMC-S 3.0.0 への移行後に指定した時間に確実にトリガーされるように、HPE では、(RMC アプライアンスが展開されている) VMware ESXi ホスト、インターフェイスサーバー、および SQL プロダクションサーバーのローカルタイムゾーン、日付、および時刻を同期することをお勧めします。

移行されたスケジュールを表示するには、**[HPE Recovery Manager Central]**→**[Schedules]**を選択します。

RMS 4.x から RMC-S 3.0.0 へのスケジュールの変換

RMS のすべてのスケジュールが直接移行できるわけではありません。そのため、スケジュールは、最も適した形に変換されます。次の表は、RMS 4.x から RMC-S 3.0.0 へのスケジュールの変換内容を示します。

値が常に一致するわけではないため、値を左から右へマッピングしないでください。

スケジュールタイプ	説明
Once	1回だけのスケジュール時刻が移行時刻より前の場合、そのスケジュールは移行されません。
Hourly	<ul style="list-style-type: none"> • RMS スケジュールの開始時刻を使用して、RMC-S 3.0.0 のスケジュールジョブの開始時刻が設定されます。 • RMS 4.x で利用可能な次のオプションは変換できません。 <ul style="list-style-type: none"> ◦ Every ## hours ◦ For a duration of ## days ◦ Indefinitely
Daily	RMS スケジュールの開始時刻を使用して、RMC 3.0.0 のスケジュールジョブの開始時刻が設定されます。

スケジュールタイプ	説明
	<p>RMS 4.x で利用可能な次のオプションは変換できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Every ## days • Every weekday
Weekly	<p>RMS スケジュールの開始時刻を使用して、RMC 3.0.0 のスケジュールジョブの開始時刻が設定されます。</p> <p>RMS 4.x のスケジュールで複数の曜日が選択されている場合、新しく作成される移行されたスケジュールは、それらすべての曜日が網羅されるように作成されます。このため、以前選択したスケジュールで、月、水、金が選択されていた場合、次の 3 つの新しいスケジュールが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 月曜日の曜日単位スケジュール • 水曜日の曜日単位スケジュール • 金曜日の曜日単位スケジュール <p>RMS 4.x で利用可能な次のオプションは変換できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Recur every ## week(s) • List of week days
Monthly	<p>RMS スケジュールの開始時刻を使用して、RMC-S 3.0.0 のスケジュールジョブの開始時刻が設定されます。</p> <p>RMS の月単位のスケジュールは、RMC-S 3.0.0 の年次のスケジュールに変換されます。</p> <p>RMS 4.x のスケジュールで複数の月が選択されていた場合、新しく移行されるスケジュールは、すべての月が網羅されるように作成されます。このため、以前選択したスケジュールで、1月、4月、6月、8月が選択されていた場合、次の 4 つの新しいスケジュールが作成されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 1月の月単位スケジュール • 4月の月単位スケジュール • 6月の月単位スケジュール • 8月の月単位スケジュール <p>RMS 4.x で利用可能な次のオプションは変換できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • Monthly day of week: The ## seq ## day of every month.
Monthly day schedule	<p>毎月特定の日のスケジュールで、## か月ごとの ## 日と指定した場合、Windows のスケジューラーは、このスケジュールを yyyy/MM/dd 以降の <month-1>, <month-2>, ... <month-n> の ##、HH:mm tt に起動のような形式のスケジュール指定に変換します。</p> <p>たとえば、毎月特定の日のスケジュールに 2 か月ごとの 6 日と指定されていて、開始時刻が午前 11:00、開始日は 2015/12/16 である場合、Windows のスケジューラーは、2015/12/16 以降の 2 月, 4 月, 6 月, 8 月, 10 月, 12 月の 6、11:00 に起動のように表示します。</p>

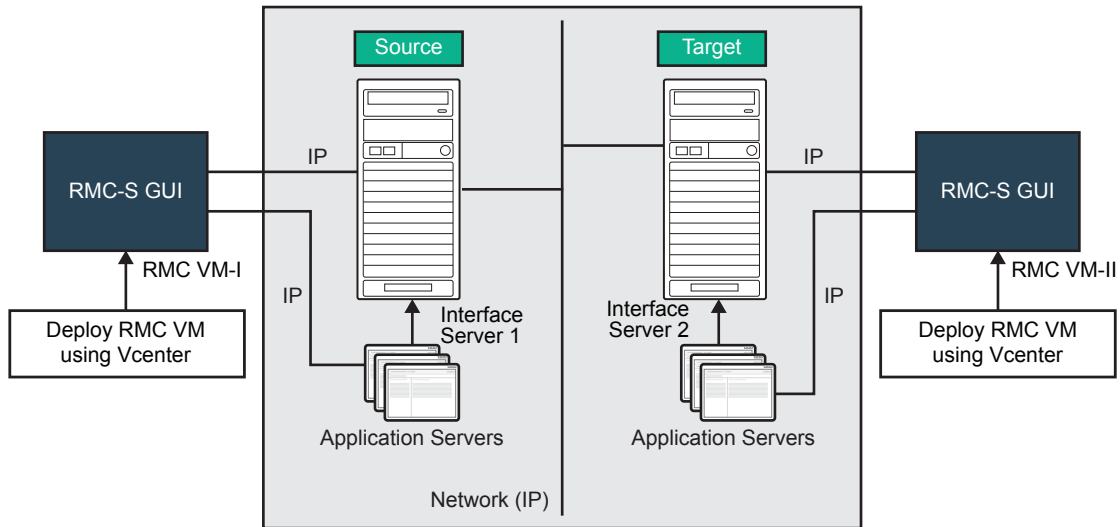
3 Remote Copy スナップショットの移行

Remote Copy スナップショットの移行は、ローカルスナップショットの移行に似ています。

非同期長距離構成

この項では、Remote Copy スナップショットの非同期長距離 (非 SLD) 構成の移行について説明します。

図 1 非同期長距離 Remote Copy 環境



LEGEND

□ RMS 4.7 ■ RMC-S 3.0 New

1. RMC-S 3.0 のインストール:
 1. RMC-S エージェントを、ソースのアプリケーションサーバーにインストールします。
 2. RMC-S エージェントおよびインターフェイスを、ソースのインターフェイスサーバーにインストールします。
 3. RMC-S エージェントを、ターゲットのアプリケーションサーバーにインストールします。
 4. RMC-S エージェントおよびインターフェイスを、ターゲットのインターフェイスサーバーにインストールします。
2. RMC 仮想マシンの展開:
 1. RMC VM-I および RMC VM-II を図 1 で示すように展開します。
 2. ソースのストレージシステムを RMC VM-I に追加します。
 3. ターゲットのストレージシステムを RMC VM-II に追加します。
3. リモートアプライアンスの追加:
 1. RMC VM-I にログインし、**[HPE Recovery Manager Central]**→**[Remote Appliance]**→**[+ Register Appliance]**をクリックします。
 2. RMC VM-II を追加します。
4. ソースのインターフェイスサーバーを RMC VM-I に登録します。
5. ターゲットのインターフェイスサーバーを RMC VM-II に登録します。
6. RMC VM-I で**[HPE Recovery Manager Central]**→**[Interface Servers]**→**[Actions]**→**[Migrate]**の順にクリックします。

7. RMC VM-II で[HPE Recovery Manager Central]→[Interface Servers]→[Actions]→[Migrate]の順にクリックします。

注記: ターゲットのインターフェイスサーバー上で RMS が管理するインスタンス、またはデータベースは、プロセス中に移行されず、エラーが発生します。ターゲットの RMC アプリアンス上で **[Use for Remote Copy]** オプションを選択してインスタンスを再登録してください。

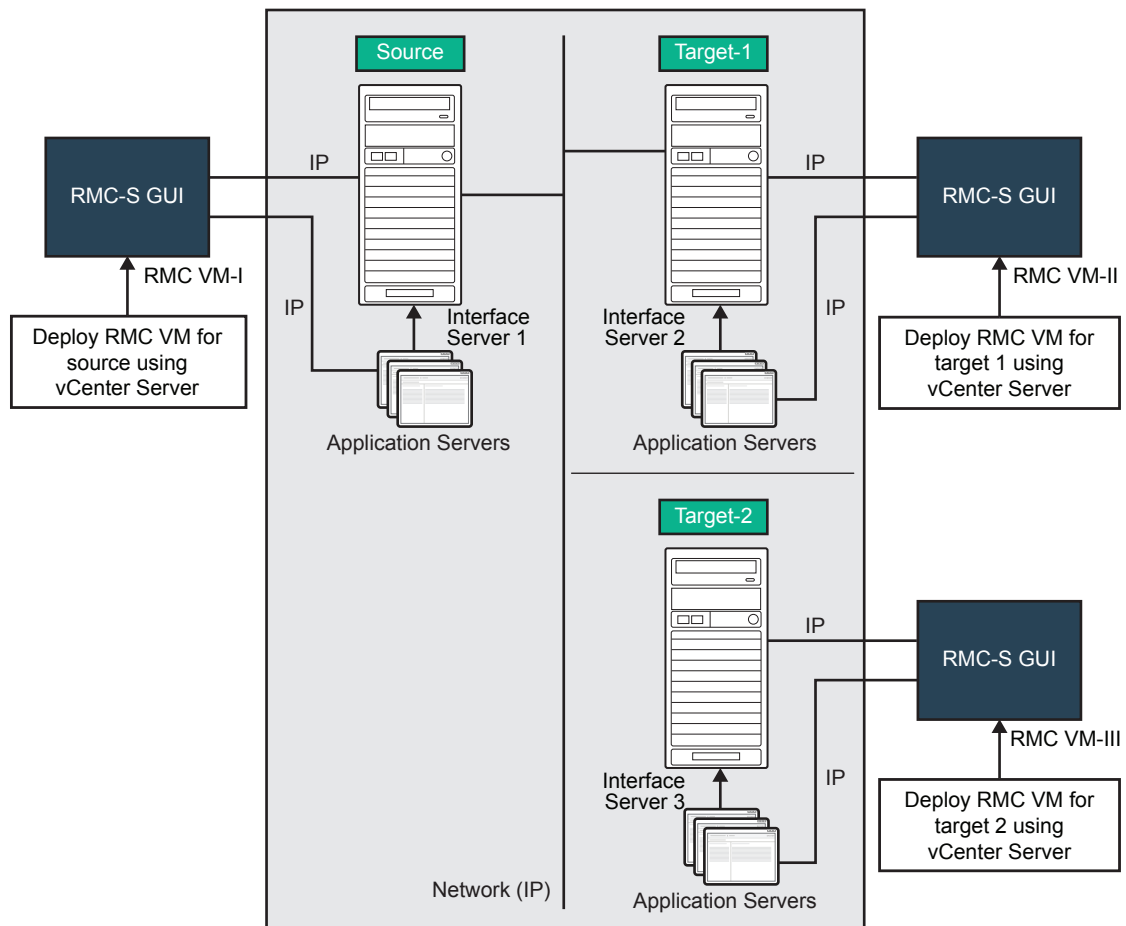
注記: ターゲットのインターフェイスサーバーから Remote Copy のスナップショットを表示またはマウントするには次の操作が必要です。

- RMC-S GUI から、ターゲットインターフェイスサーバーで **[Use for Remote Copy]** オプションを選択した状態で、Remote Copy 関連のインスタンスまたはデータベースを登録してください。
- ターゲットのインターフェイスサーバー上で RMS が管理するインスタンス、またはデータベースは、プロセス中に移行されません。このタスクは手動で完了する必要があります。

同期長距離構成

ここでは、同期長距離 (SLD) 構成用の Remote Copy スナップショットの移行について説明します。

図 2 同期長距離 Remote Copy 環境



1. RMC-S インストーラーが存在するフォルダーに移動し、HPE_RMCS_3.0.0.exe をダブルクリックしてから、以下の手順を実行します。
 - a. RMC-S エージェントを、ソースのアプリケーションサーバーにインストールします。

- b. RMC-S エージェントおよびインターフェイスを、ソースのインターフェイスサーバーにインストールします。
 - c. RMC-S エージェントを、Target-1 のアプリケーションサーバーにインストールします。
 - d. RMC-S エージェントおよびインターフェイスを、Target-1 のインターフェイスサーバーにインストールします。
 - e. RMC-S エージェントを、Target-2 のアプリケーションサーバーにインストールします。
 - f. RMC-S エージェントおよびインターフェイスを、Target-2 のインターフェイスサーバーにインストールします。
2. 以下の手順を実行して、RMC VM を展開します。
 - a. [図 2 \(13 ページ\)](#)に示すように、RMC VM-I、RMC VM-II、および RMC VM-III を展開します。
 - b. ソースのストレージシステムを RMC VM-I に追加します。
 - c. Target-1 のストレージシステムを RMC VM-II に追加します。
 - d. Target-2 のストレージシステムを RMC VM-III に追加します。
 3. 以下の手順を実行して、リモートアプライアンスを追加します。
 - a. RMC VM-I にログオンし、**[HPE Recovery Manager Central]**→**[Remote Appliance]**→**[+ Register Appliance]**をクリックします。
 - b. RMC VM-II をリモートアプライアンスとして追加します。
 - c. RMC VM-III をリモートアプライアンスとして追加します。
 4. ソースのインターフェイスサーバーを RMC VM-I に登録します。
 5. Target-1 のインターフェイスサーバーを RMC VM-II に登録します。
 6. Target-2 のインターフェイスサーバーを RMC VM-III に登録します。
 7. RMC VM-I で**[HPE Recovery Manager Central]**→**[Interface Servers]**→**[Actions]**→**[Migrate]**の順にクリックします。
 8. RMC VM-II および VM-III に対して、これらの手順を繰り返します。

注記: Target-1 または Target-2 のインターフェイスサーバーからの Remote Copy スナップショットを表示またはマウントするには、Target-1 および Target-2 のインターフェイスサーバー上で、RMC-S GUI を使用して、**[Use for Remote Copy]** オプションを選択した状態で、Remote Copy 関連のインスタンスまたはデータベースを登録してください。RMS がターゲットのインターフェイスサーバーで管理するインスタンスまたはデータベースは、プロセス中に移行されません。このタスクは手動で完了する必要があります。

推奨事項 (オプション)

次のシナリオでは、新しい Remote Copy のスナップショットの作成または移行されたスケジュール済みジョブによるスナップショットの作成は失敗し、エラーメッセージが表示されません。

- SLD Remote Copy で、ターゲットのインターフェイスサーバーの RMC が両方のターゲット HPE 3PAR ストレージシステムを管理している場合に、ターゲットのインターフェイスで RmcRegistration.exe によるデフォルトのストレージシステムの設定を行った。
- ターゲットのインターフェイスサーバーの RMC が HPE 3PAR ストレージシステムを 1 つだけ管理している場合に、RmcRegistration.exe によるデフォルトのストレージシステムの設定を行わなかった。

HPE では、エラーメッセージと推奨事項に基づいてエラーを解決することをお勧めします。

4 トラブルシューティング

既知の問題

RMS に定期モードのスナップショットが存在する場合、移行プロセスはそのターゲットの定期モードのスナップショットを移行します。ただし、これらのスナップショットは RMC-S 3.0.0 を使用してマウントすることはできません。ターゲットの定期モードのスナップショットのマウントは、従来の RMS 4.6 および 4.7 でも失敗します。

HPE では、これらのスナップショットをマウントする場合は、RMC GUI を使用することをお勧めします。

注記: この問題は、定期モードのスナップショットの移行中には発生しません。

移行した後、RMC-S でなんらかの操作を実行中にエラーが発生した場合は、RMC アプライアンスを再起動します。

5 サポートとその他の資料

Hewlett Packard Enterprise サポートへのアクセス

- ライブアシスタンスを受ける場合は、Hewlett Packard Enterprise Worldwide の Web サイトを参照してください。

www.hpe.com/assistance

- ドキュメントやサポートサービスにアクセスする場合は、Hewlett Packard Enterprise サポートセンター Web サイトを参照してください。

www.hpe.com/support/hpesc

アップデート情報の取得

- 一部のソフトウェア製品では、製品のインターフェイスを介してソフトウェアアップデートにアクセスするメカニズムを提供します。推奨されるソフトウェアの更新方法を識別するために、ご使用の製品のマニュアルを確認してください。
- 製品のアップデートをダウンロードするには、次のいずれかにアクセスします。

- Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[Get connected with updates from HPE]** ページ:

www.hpe.com/support/e-updates

- Software Depot の Web サイト:

www.hpe.com/support/softwaredepot

- ご使用の利用権限の表示および更新、お客様のプロファイルにより、契約、Care Pack、および無償保証へリンクするには、Hewlett Packard Enterprise サポートセンターの **[More Information on Access to HPE Support Materials]** ページに移動します。

www.hpe.com/support/AccessToSupportMaterials

- ① **重要:** Hewlett Packard Enterprise サポートセンターからアクセスする場合、一部のアップデートへのアクセスには、製品の使用権が必要なことがあります。関連する利用権限を用いて HPE パスポートを設定する必要があります。

Web サイト

Web サイト	リンク
Hewlett Packard Enterprise Worldwide へのお問い合わせ	www.hpe.com/assistance
サポート情報	www.hpe.com/support/e-updates
Software Depot	https://www.hpe.com/support/softwaredepot
参考資料	
Hewlett Packard Enterprise Information Library	www.hpe.com/info/enterprise/docs
Hewlett Packard Enterprise Information Library の RMC ドキュメント	www.hpe.com/storage/rmc/docs
Hewlett Packard Enterprise サポートセンター	www.hpe.com/support/hpesc

Web サイト	リンク
Single Point of Connectivity Knowledge (SPOCK) のストレージ互換性マトリックス	https://h20272.www2.hpe.com/spock/
ストレージのホワイトペーパー	www.hpe.com/storage/whitepapers

リモートサポート

リモートサポートはお客様の無償保証、Care Pack サービス、またはサポート契約の一部としてサポートされているデバイスで使用できます。リモートサポートでは、インテリジェントなイベント診断、およびハードウェアイベント通知の Hewlett Packard Enterprise への安全な自動送信を提供します。これにより、ご使用の製品のサービスレベルに基づいて迅速かつ正確な解決が開始されます。Hewlett Packard Enterprise は、ご使用のデバイスをリモートサポートに登録することを強くお勧めします。

デバイスのサポートなど詳細については、以下の Web サイトを参照してください。

www.hpe.com/info/insightremotesupport/docs

用語とテクノロジー

表 1 用語とテクノロジー

用語/テクノロジー	説明
RMC	Recovery Manager Central
RMC-S	Recovery Manager Central for MS SQL Server
HPE RMC VSS	HPE Recovery Manager Central VSS Provider
VSS	ボリュームシャドウコピーサービス
CLI	コマンドラインインターフェイス
SPOCK	Single Point of Connectivity Knowledge
Recovery Manager Agent for SQL Server	プロダクションサーバー上の RMC-S のエージェントコンポーネント
Recovery Manager for Interface Server	インターフェイスサーバー上の RMC-S のサーバーコンポーネント
SSL	Secure Socket Layer
OVF	Open Virtualization Format
GPT	GUI Partition Table
可用性グループ	<p>Microsoft SQL Server 2012 および 2014 AlwaysOn 機能の一部。データベースのミラーリングとログ SHIPPING 機能を組み合わせて、以下のことを可能にします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 複数データベースのフェイルオーバー • 複数のセカンダリ • 仮想名を使用したアプリケーションフェイルオーバー • 読み取り可能セカンダリ • セカンダリからのバックアップ <p>グループとしてのデータベースを、AlwaysOn ノードセット内のあるノードから別のノードに移動できません (フェイルオーバー)。</p>
AlwaysOn	Microsoft SQL Server 2012 および 2014 に追加された災害復旧ソリューション。このソリューションは、データベースレベルとインスタンスレベルの可用性を提供します。
データベース	データベースは、物理構造内の論理オブジェクトの集合です。物理構造は、1つまたは複数のデータファイルと、1つまたは複数のトランザクションログファイルから構成されます。データベースは、SQL Server 自身によって使用されるか (システムデータベース)、アプリケーションによって使用されます (ユーザーデータベース)。
クラスターグループ	クラスターリソースの論理的なグループ。ノードの動作状態を維持したまま、あるノードから別のノードに移動できます。管理者またはクラスターのリソースの障害により、クラスターグループが移動されることがあります。
ホストシステム	ストレージシステム上のストレージにアクセスするコンピューター。
ログ SHIPPING	プライマリ SQL Server からバックアップしたトランザクションログを取得し、別の SQL Server データベースにスケジュールに基づいて順次適用するプロセス。障害が発生した場合、アプリケーションは他のサーバーにリダイレクトされますが、そのサーバーは、プライマリデータベースから少しだけ遅れることとなります。論理システム障害または物理システ

表 1 用語とテクノロジー (続き)

用語/テクノロジー	説明
	ム障害が発生した場合、ログ SHIPPING は、組織を保護する手段となります。
MSCS Microsoft Cluster Services (MSCS)	複数のクラスターノードからなる仮想システムの作成を可能にするシステムサービス。各ノードは独立した物理コンピューターであり、クラスター内の他のノードのフェイルオーバーリソースです。各ノードは、1つまたは複数の仮想 SQL Server インスタンスをサポートできます。
SQL Server	クライアントサーバーデータベースモデルに基づく Microsoft のリレーショナルデータベースシステム。
SQL Server コンピューター	Microsoft SQL Server データベースシステムが動作しているハードウェア。
SQL Server レプリケーション	SQL Server が開始および制御するレプリケーションプロセス。
システムデータベース	SQL Server によって内部的に使用されているデータベースタイプ。
システムデータベース	システムデータベースは、インストール時か、分散データベースなどの機能の構成時に作成されます。
分散データベース	トランザクション、スナップショットジョブ、同期ステータス、レプリケーション履歴情報などレプリケーション用のデータが格納された、ディストリビューター上のデータベース。このデータベースは、レプリケーションがアクティブになると作成されます。
master データベースレコード	master データベースには、システムレベルの情報、SQL Server の初期化情報、および SQL Server の構成設定が記録されます。また、このデータベースには、すべてのログインアカウントと、データベース名からそのプライマリファイルの位置へのマッピング情報も記録されます。
tempdb データベース	ストアドプロシージャやテーブルなど、すべての一時記憶ニーズを満たすために使用されるデータベース。tempdb データベースは、クエリ処理とソート、およびスナップショット分離で使用される行バージョンの維持のために SQL Server を使用します。SQL Server が起動されるたびに、デフォルトのサイズで tempdb データベースのクリーンコピーが再作成されます。
model データベース	tempdb データベースを含む、システム上の他のすべてのデータベースのテンプレート。データベースが作成される時、その最初の部分は、model データベースの内容のコピーとして作成されます。データベースの残りの部分は空のページで埋められます。model データベースは、SQL Server が起動されるたびに tempdb を再作成するために使用されるので、システム上に存在している必要があります。ユーザー定義データ型やテーブルなどを含むように model データベースを変更することができます。model データベースを変更すると、作成するすべてのデータベースに変更後の属性が使用されます。
msdb データベース	SQL Server エージェントがジョブとアラートのスケジュール用に使用したり、オペレーター (ジョブとアラートの責任を割り当てられている人) を記録するために使用するテーブルが格納されているデータベース。このデータベースには、ログ SHIPPING とバックアップおよび復元に使用するテーブルも格納されています。
トランザクションログ	先書きログとして使用されるファイル。すべてのトランザクション操作はトランザクションログに記録されます。トランザクションは「commit」トランザクションレコードがトランザクションログに書き込まれたときにコミットされたときに見えます。トランザクションログは、クラッシュ整合性を主な目的としています。システムクラッシュや電源障害などの壊滅的な事象が発生した場合、トランザクションログには、コミットされたすべてのトランザクションをロールフォワードし、コミットされていないすべてのトランザクションをロールバックするのに十分な情報が格納されています。

表 1 用語とテクノロジー (続き)

用語/テクノロジー	説明
ユーザーデータベース	アプリケーション用に作成され、アプリケーションによって使用されるデータベースは、ユーザーデータベースと見なされます。
Windows Server Failover Cluster (WSFC)	AlwaysOn が構成されているサーバー (ノード) のセット。ノードはディスクを共有せず、各ノードに SQL Server インスタンスが存在している必要があります。